

備前市事務事業評価表

| | | | | | |
|------------------|-----------|----|------------------|-------|------------------|
| 事務事業名 | 特定高齢者施策事業 | | | コード | 02-01-05-06 |
| | | | | 担当課・係 | 介護保険課 地域包括支援センター |
| | | | | 担当者 | 梶藤 さつき |
| 事業実施期間 | H18.4~ | | | 電話 | 64-1844 |
| 総合計画 事業（政策）体系 | 大項目(基本目標) | 02 | 健康でやさしさあふれるまちづくり | | |
| | 中項目(基本施策) | 01 | やさしさあふれるまちづくり | | |
| | 小項目(施策) | 05 | 介護保険 | | |

| | |
|-----------------|--|
| 事業について | |
| 目的 (何のために) | 本事業は、主として要介護状態等となる恐れの高い、虚弱な状態にあると認められる65歳以上の人を対象として実施し、要介護状態に陥らないように予防することを通じて、ひとりひとりの生きがいや自己実現のための取り組みを支援し、活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるよう支援することを目的とする。 |
| 対象 (誰・何を対象に) | 基本健康診査（生活機能評価）の結果、生活機能が低下している恐れがあると認められる人（特定高齢者） |
| 内容 | ・特定高齢者把握 ・介護予防研修・教室の開催 ・個別の介護予防プランの作成 |

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

| | |
|-----------|-----------|
| 事業の結果 | |
| 実施項目 | 回数など (単位) |
| 特定高齢者候補者数 | 275 人 |
| 特定高齢者認定者数 | 56 人 |
| 教室開催回数 | 8 回 |

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

| | | | | | | | | | | | | |
|----------------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 事業費 (単位：千円) | 事業費 | | 財源 | | 事業費 | | 財源 | | 事業費 | | 財源 | |
| | 直接事業費 | 間接補助金等 | 直接事業費 | 727 | 間接補助金等 | 3,028 | 直接事業費 | 727 | 間接補助金等 | 3,028 | 直接事業費 | 727 |
| | 人件費 | 受益者負担 | 人件費 | 7,154 | 受益者負担 | 4,037 | 人件費 | 7,154 | 受益者負担 | 4,037 | 人件費 | 7,154 |
| 合計 | 0 | 一般財源等 | 0 | 合計 | 7,881 | 一般財源等 | 816 | 合計 | 0 | 一般財源等 | 0 | |

| | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 必要人員 | 1.08 人 | |
| 結果指標名 | 特定高齢者認定者数 | |
| 結果指標量 | 56 | |
| 単位 | 人 | |
| 対前年比 | — | |
| 活動にかかるコスト | 円 | 1,325,000 円 |
| 単位当たりコスト | 円 | 23,661 円 |
| 結果指標名 | 教室開催回数 | |
| 結果指標量 | 8 | |
| 単位 | 回 | |
| 対前年比 | — | |
| 活動にかかるコスト | 円 | 6,556,000 円 |
| 単位当たりコスト | 円 | 145,689 円 |

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

| | |
|-------------------|--|
| 事業の成果 | |
| どのような成果を得ようとしているか | 特定高齢者に該当するできるだけ多くの人が、多く教室等に参加することにより、要支援・介護状態になることを予防する。 |
| 成果指標名 | 特定高齢者認定者の介護予防研修会・教室への参加率 |
| 式又は説明 | (教室等参加実人数) / (特定高齢者認定者数) × 100 |
| 成果指標量 | 17年度 — 18年度 10.7 |
| 対前年比 | — |
| 到達目標値 | 40% |

(平成18年度事業)

| | | | | | |
|---------|----------------|-----------|--|-------------|--|
| 事務事業の評価 | 目的・対象・内容の妥当性評価 | 目的の妥当性 | <input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 介護保険法 | 妥当性評価 <A-E> | C |
| | | 対象の妥当性 | <input checked="" type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である | 課題認識 | 国の示した基準により特定高齢者に該当する対象者の抽出を行うと、市内高齢者の約5%が見込まれるとのことで、564人を想定していたが実際にはさらに低い率の56人となった。来年度は、新しい基準が国から示され対象者が今回よりも増えることが予想される。効率的な教室運営のためにも、特定高齢者のハイリスク者が生活機能評価を受診できるようにかわりを持つことが課題となる。 |
| 効率性の評価 | 市民ニーズの妥当性 | 市民ニーズの妥当性 | <input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である | 効率性評価 <A-E> | D |
| | | 市の関与の妥当性 | <input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である | 課題認識 | 対象者56人は、住所が市内広域に渡っているため、一ヶ所に集まってしまうのが問題となった。地区ごとに研修会等を開催しても参加者が数人しか集まらないのも効率的に悪くなるのは確実である。来年度特定高齢者が増えると予想されるので、より多くの人が参加できる教室運営の体制づくりが課題である。 |
| 有効性の評価 | 市民参画度 | コストの効率化 | <input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である | 有効性評価 <A-E> | A |
| | | 手段の最適化 | <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている | 課題認識 | 今年度一連のプログラムを実施した後の評価として、大部分の人の生活機能の向上が図れた。 |
| 市民参画度 | 市民参画度 | 職場の効率化 | <input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の見解・要望が反映されやすい | 有効性評価 <A-E> | A |
| | | 目的達成度 | <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある | 課題認識 | |

| | | | | |
|-----------|---|---|----|------------------|
| 平成19年度の状況 | <input checked="" type="checkbox"/> 重点化している <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している | <input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了 | 説明 | 来年度以降は、対象者が増加する。 |
|-----------|---|---|----|------------------|

| | | | | |
|-------|--|------|-------|-----|
| 目標値 | 結果指標量 | 570人 | 結果指標量 | 48回 |
| 成果指標量 | 特定高齢者認定者の介護予防研修会・教室への参加率2.0% (特定高齢者を決定する基準は平成18年度基準と19年度基準とは異なる) | | | |

| | | | |
|------|---|------------|---|
| 総合評価 | 今年度においては、対象者が市内広域に点在していたため効率的な参加を促すことが困難であった。来年度以降は、対象者が確実に増加するため開催場所や回数の設定が課題の1つである。 | 評価区分 <A-E> | C |
|------|---|------------|---|

| | | |
|--------------|---|--|
| 平成20年度以降の方向性 | <input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する | <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 |
|--------------|---|--|

| | |
|---------------|--|
| 平成20年度以降の改善事項 | 評価の視点 改善内容 改善時期 改善により期待される効果 |
| 有効性 | 研修会、教室に参加した対象者に合ったプログラムの選定 随時 要介護状態に陥らない元気高齢者の輩出 |